

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2691600114		
法人名	株式会社 康生会		
事業所名	グループホーム三愛の里うつね(1F)		
所在地	〒621-0801 京都府亀岡市宇津根町土井ノ内48番地1		
自己評価作成日	令和5年9月9日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691600114-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691600114-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅渡町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年10月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員間で情報が共有できるように、職員個々での情報発信を心掛けている。(チームケアの強化)</li> <li>○利用者主体のケアができるよう利用者の行動に意味を持って考えるようにしている。</li> <li>○利用者の自立支援及び機能維持のため、出来る範囲での作業を依頼するよう心掛けている(家庭菜園での収穫、洗濯物干し・畳み、食器洗い、掃除など)</li> <li>○OJTやOffJTを積極的に行い、職員のスキルアップを図っている。</li> <li>○チームケア向上のため、ユニットテーマを決め、それを目標に日々のケアを行うよう心掛けている。</li> <li>○気付きを大切にし、その気付きをケアに生かすようにしている。(目配り、気配り、心配り)</li> <li>○多職種間(介護員・ケアマネ・看護師)の連携を密に取っている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当事業所は、設立後6年8カ月のうち約半分を新型コロナの影響を受けてきました。その間に、その時々状況に見合った生活の楽しみ方を見だし、近年は少人数に分かれ、七谷川、馬堀駅近辺などへの花見ドライブ、ギャラリー亀岡のバラ園と紅葉狩りなどに出かけています。季節の行事にも力を入れ、正月のしめ縄作り、七夕祭り、お好み焼きやたこ焼きなどの屋台メニューとゲームで楽しむ納涼祭など、暮らしに変化をつけ、日々の生活の充実を図っています。食事は手作りにこだわり、隣の農園で採れた野菜も時に食卓を彩ります。一方、各種行事、記念日には、近くの弁当店や老舗の高級弁当を取り寄せ、特別感を演出します。その時の利用者の表情は、写真におさめ、機関紙や家族への便りに添えています。また、化粧品や日用品は、利用者と一緒に買い物に出かけて本人に選んでもらっています。さらに、平均介護度2.4ながら排泄の自立度が高く、特に1階は布パンツの方が非常に多いのも当事業所の特徴です。定期訪問の医師、事業所の看護師、看護師資格を持つ介護支援専門員、介護職員などの連携と手厚いサポートにより、利用者は安心して過ごされています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所内に理念、ユニットテーマを掲示し、職員が常に意識できるよう努めている。 ・毎週月曜日の申し送り時に理念唱和を行うよう心掛けている。 ・2ユニットが理念を基にしたユニットテーマを掲げ、職員が共通認識を持つようになっている。	「利用者様、家族様の身になってお世話させていただきます。」他2ヶ条の法人理念があり、当番の職員が月曜日に読み上げて浸透を図っている。また、ユニットテーマとして具体的な取り組みを定め、実践につなげている。1階は特に新人職員が多いので、理念に沿った実践ができているかどうか、会議で主任が日頃の気づきを話すようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の店舗での買い物を実施している。 ・地域の美容室より訪問カットを依頼している。 ・食事会など施設行事の食事を地域の店舗に依頼している。	地域での買い物や食事の取り寄せの他、副施設長が城西小学校の総合消防訓練に参加している。髪染めをされる方は地域の美容室を利用し、事業所が送迎をしている。気候の良い時は、利用者とともに事業所前の道路を清掃している。米は地元農家から買っている。地域の方に筍などを頂くことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所見学にて説明と理解に努めているが、新型コロナウイルスの影響で見学は実施できていない。 ・認知症の相談があった場合にはできる限り分かりやすい説明を行うよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎月の事業所の取り組みや行事などを報告し、そこでの意見や情報をサービス向上に活かしている。 ・テーマを決めてそれに沿って話をしている ・出席者から事前に会議での議題のアンケートを取っている。	運営推進会議では資料をもとに、利用状況、要介護度や入退院の現状、行事、研修、定期診療などについて報告している。会議の参加者とは、面会や食事、新型コロナのワクチン接種に関する意見交換等をおこなっている。管理者が認知症をテーマに話すこともある。議事録は会議の参加者に配布し、玄関にも置いている。	新型コロナの影響で、条件付き面会を再開されましたが、事業所を訪れる方は少なくなっています。玄関に綴じてある運営推進会議の議事録を見られる方がどれくらいおられるのか把握ができません。会議の意義や内容を知ってもらうために、全家族への議事録配布を考えられては如何でしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・協力体制の構築や情報収集に努めている。	運営推進会議に市の高齢福祉課職員の出席がある。今年の新型コロナの陽性者発生の際には、前回のクラスター発生時の保健所の指導を生かし、早期に収束ができた。事故報告があれば行政に報告をしている。介護保険の更新や区分変更の手続き、介護保険請求上の質問などでのやり取りもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束の現状について3か月に一度会議を行っている。</li> <li>・身体拘束廃止研修を定期的に行い、職員に対して教育を行っている。研修では高齢者虐待も身体拘束の一部として捉えている。</li> <li>・新任職員に対しては入職時に身体拘束の基本的な説明を行っている。</li> <li>・利用者に納得のいく説明や声掛けの工夫によってスピーチロック防止に努めている。</li> </ul>	<p>定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、参加していない職員にはユニット会議で報告をしている。センサーマット使用の方の検証や解除事例も記録している。年2回全職員が身体拘束・虐待の研修を受け、全員がレポートを提出している。「ちょっと待って」などの声掛けに注意し、利用者を言葉で拘束したり、唐突な声掛けで驚かせたりしないように気を付けている。帰宅願望の強い方には作業の手伝いや散歩などで気分転換を促し、本人の体調を見ながら、郷里は遠くて無理でも、他府県の親族宅に帰れるように調整中である。</p>	<p>管理者が多くの業務を一手に担っていますが、正職員も多いので、業務を振り分け、職員を育成することも必要かと思えます。現在は混然としていますが、来年度からは、虐待の委員会や研修、責任者の設置も必要となります。身体拘束と虐待の棲み分けを明らかにし、各研修記録は第三者が見てもすぐわかるように整備されるよう期待します。また、職員の報告書には、研修年月日や研修場所(回覧形式の研修であれば提出日)を入れ、書類としての体裁を整えることも望まれます。</p>
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への不適切な言動や対応については職員間、主任、管理者への報告を徹底している。</li> <li>・身体拘束廃止研修では、高齢者虐待防止についても研修を行っている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、成年後見制度を利用している方がおられるので、今後はその方の関りから制度について学んでいく機会を設ける。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解、納得していただけるような説明を心掛けている。</li> <li>・理解して頂いたことを確認しながら説明を行っている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面会の時などにできるだけ家族と話し、要望を聞くようにしている。</li> <li>・施設玄関に意見箱を設け、積極的に意見を取り入れるようにしている。</li> <li>・運営推進会議で家族代表からの意見を運営に反映させている。</li> </ul>	<p>日常的に利用者の意向を引き出して支援している。家族等の意向は面会時や電話などで聞いている。面会の問い合わせが多く、現在は新型コロナウイルスの抗原検査後に15分間、入口のベンチで3名迄面会可能としている。予約制ではあるが、急に来られる家族もあり、検査後に受け入れている。運営推進会議で、「食事の量が多いが、利用者さんは気を遣って無理に食べているのではないか」との問いがあり、事業所は本人の適量を分かって無理なく支援していると伝えている。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業部会議を毎月開催し、運営に関する意見交換を行っている。</li> <li>・ユニット会議を毎月行い、職員間での意見交換を行っている。</li> </ul>	<p>ユニット会議などで職員の意見を聞き、主任や副主任が業務以外の事も含めて相談に応じている。日曜日の夕方に職員が手薄なため、安全を重視し、食事をクックチル(既製品を湯煎して使用)にしてはどうかという意見があり、採り入れている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や資格取得については積極的に取り組めるよう支援している。</li> <li>・資格取得については、会社独自で勉強会を設けている。</li> <li>・希望休の確認や勤務調整をできるだけ希望通りに行っている。</li> <li>・必要な資格や経験等、常に職員個々がチャレンジしやすい環境・条件の整備に心掛けている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員個々をアセスメントし、個性や力量を把握したうえで指導していくよう心掛けている。</li> <li>・エルダー制を導入し、より個別に指導できるよう努めている。</li> <li>・スーパービジョンを取り入れ、職員の主体性を育てるようにしている。</li> <li>・事業部内研修、外部研修への参加機会を設けている。</li> <li>・業務で役割分担を行い、自身が責任を持って業務にあたる機会を設けている。</li> <li>・個々の能力に見合ったスキルアップが図れるよう配慮している。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム協会、グループホーム連絡会に加入し、その他の同業者間で行う研修や交流会、催しには積極的に参加するようにし、情報収集やサービスの質の向上に努めている。</li> </ul>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子観察や本人の気持ちをゆっくりと日常の中で傾聴するよう努めている。</li> <li>・環境に慣れていただくことを第一と考え、環境整備や、人間関係の構築に努めている。</li> <li>・「その人らしさのアセスメントシート」を活用し、入所時の情報収集に努めている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族から職員に話しかけてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。</li> <li>・スタッフからも困っていることがないか尋ねるようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で意見を出し合い、家族、利用者双方に対して多角的にサービス提供ができるように努めている。</li> <li>・入所時のケアプラン作成時に本人、家族からの要望を聞き、サービス導入の足掛かりとしている。</li> <li>・24時間シートを活用し、その人の生活状況を把握するようにしている。</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方的な与えるケアではなく、本人の思いに沿ったケアを行うように努めている。</li> <li>・利用者がそれぞれ役割を持てるように当番制で作業を行ってもらっている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に対しては、利用者を共に支え合う立場ということで、ボランティアとして協力していただくことを働きかけている。※コロナの影響により現在は中止</li> <li>・病院受診や本人に必要な日用品購入などは家族に依頼している。</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先を馴染みの場所に設定したり、面会等で馴染みの人と会える機会を設けるよう努めている。	友人の面会はないが、家族との面会、電話や手紙のやりとりへの支援をおこなっている。DVDを見ながらの体操や懐メロ、童謡などの歌、生花教室の作品などを自室やホールに飾り、従来の生活の継続を楽しんでいる。カラオケも徐々に再開予定である。洗濯物たみや、食事の準備などを当番制にして役割を持ってもらっている。近くの美容院で髪染めをされる方もある。毎月家族に本人の写真と近況を記した手紙を送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションにて一緒に作業をさせていただいたり、スタッフが関わる等孤立しないように努めている。</li> <li>・利用者同士の関係性構築の為にスタッフが仲介し支援するよう心掛けている。</li> <li>・利用者同士の関係を考慮して、リビングでの席を決定している。必要ならば席替えを行う。</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や地域に働きかけ、契約終了後も安心して暮らせる為のサービス提供に向けてフォローを行っている。</li> <li>・サービス利用時から家族との関りを大切にし、相談しやすい関係性を作るようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何をしてほしいのか、何を求めているのか等、日々の暮らしの中での本人の希望や思いを理解するように努めている。 ・本人の性格や生活リズム、行動等から本人の思いを汲み取るようにしている。	本人の希望を聞き、納涼祭や新年会ではリクエストに応じて料理屋の弁当を取り寄せ、誕生日には好物を提供し、必要品の買い物に同行して本人に選んでもらっている。1人の時間や、趣味を大事にしたい方など、個々の思いに沿って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時には本人の生活歴や、生活環境、その人らしさを職員全員が周知するよう努めている。 ・「その人らしさのアセスメントシート」を活用している。 ・必要に応じて本人、家族よりこれまでの生活について聞き取りを行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・様子や顔色など状況の変化を見逃さないようにしている。 ・朝夕の申し送りや記録を確認しながら、一人ひとりの現状把握に努めている。 ・体調変化や状態変化は「特変時記録」を活用し、状況と変化を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・少しでも気になる点があれば、職員間で意見交換し、それをケアプランに生かしている。 ・家族の意見や意向を踏まえて計画作成している。 ・月1回のユニット会議での意見をカンファレンスと併せて計画作成に反映させている。	ケアチェック表を作成し、食事・入浴などの項目ごとに課題を分析し、本人や家族の意向、多職種によるカンファレンスや経過記録などを反映させて、介護計画を作成している。安定期はほぼ1年で介護計画を更新するが、状態変化や認定期間更新などにより、早期に計画を更新する場合もある。計画には本人や家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・5W1Hを意識した記録を心掛け、記録以外でも連絡・相談・報告を行い、常に情報を共有するようにしている。 ・職員間の連絡手段として、連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・優先順位と柔軟性を職員一人ひとりが意識し、本人や家族の状況に対して、迅速に対応できるように努めている。 ・先入観に捉われず、多角的な視点でサービス提供ができるように職員のスキルアップやチームケアの向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域のボランティアや施設を活用し、本人の生活が豊かで楽しいものになるように支援している。 ※コロナの影響により実施できず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の訪問診療を実施し、体調管理を行っている。必要なら医師の指示により病院受診を行っている。</li> <li>・医療機関への受診については本人及び家族の希望を聞いたうえで、適切な医療を受けていただけるよう支援している。</li> </ul>	<p>入所時に在宅時のかかりつけ医の継続も可能と説明するが、全員が協力医療機関からの定期診療を受けられている。他の専門科受診には家族や職員が同行し、歯科は必要時に往診を依頼している。協力医療機関とは事業所の看護師を通じて24時間オンコール体制が取れ、受診や救急搬送の指示を仰いでいる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との関わりの中で変化や気付きを記録し、それを伝達し、利用者それぞれに適した看護を受けられるよう支援している。</li> <li>・ユニット会議やカンファレンス、申し送りに看護師も参加し、情報の共有に努めている。</li> <li>・日常生活の中で関りが持てるよう、介護業務にも携わってもらっている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院関係者と連絡を取り合い、情報交換するよう努めている。</li> <li>・病院関係者との関係づくりを強化するため、積極的にコミュニケーションを取るようになっている。</li> <li>・退院カンファレンスでは積極的な意見交換を行い、退院後も本人が安全、安心に暮らせるよう努めている。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所契約時に終末期ケア(看取り介護)についての指針の説明や、家族の希望を事前に確認するようにしている。</li> <li>・看取り介護が適切に行われるよう、体制強化に努めている。</li> </ul>	<p>重度化や看取りの指針は作成しているが、看取りはおこなっていない。今後のために看取りの研修や備えは必要と考えるが、職員体制や職員のメンタル面も考慮し、慎重に進めていくつもりである。現在は、入所時あるいは退院後にトイレでの立位が取れる方の入所、再入所を想定している。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急変時の対応マニュアルを作成し、急変時はそれに則って対応している。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回避難訓練を行い、災害に備えている。夜間を想定した訓練も行っている。</li> <li>・事業所の立地が水害危険区域でもある為、水害に備えた訓練は特に力を入れている。</li> <li>・自然災害での迅速な対応の為、防災メールの登録を全職員が行うよう努めている。</li> </ul>	<p>昼夜想定火災訓練と水害、地震などの避難訓練を利用者とともに年2回おこない、うち1回は亀岡消防署の立ち合いがある。災害の時は建物の外まで利用者を避難誘導し、2階の利用者は非常口かテラスで救助を待つようにしている。職員連絡はグループライン(無料通信ソフト)で一斉に通知している。近隣の職員には日頃から有事のさいの応援を依頼している。非常食を3日分備蓄している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの人格を尊重し、利用者それぞれに応じた働きかけや、言葉がけを行っている。</li> <li>職員同士、利用者同士、職員と利用者、いろいろな場面において、その人の人格やプライバシーを損ねないように、また謙虚さを持ってもらうよう配慮している。</li> </ul>	<p>時間がかかっても利用者本位に自立支援をおこなうよう努めている。トイレも無理に見守りに入ろうとせず、自立の方は本人に任せている。浴室前にはのれんで目隠しをし、同性介助希望の方は職員が適宜交替し、同性の職員がいない日は日にちを替えて対応している。「ちょっと待って」などの言葉による抑止は、研修課題として職員全員が考察し、レポートを提出している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人による選択や本人の希望を確認してからケアにあたるよう努めている。</li> <li>本人が自己決定しやすいような関わり(話し方や聞き方など)、雰囲気作りができるよう努めている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人をしっかりとしてアセスメントし、利用者個人を理解するよう努めている。</li> <li>職員本位にならず、一人ひとりのペースにあった関わりを持つよう心掛けている。</li> <li>状況に応じて本人の希望を優先できるよう努めている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>整髪などの身だしなみができる利用者については、物品を準備してやってもらうよう心掛けている。必要な場合は声かけを行っている。</li> <li>介助が必要な方に対しては職員が気付き、身だしなみを整えるようにしている。</li> <li>その人の好みや傾向を把握し、衣類などの購入の際に生かしている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の希望や好みを献立に反映させるようにしている。</li> <li>食事の準備については当番制で役割分担を行い、一人ひとりの力を活かしながら行っている。</li> <li>食事の後片付けなど、本人ができることはやってもらっている。また、コミュニケーションを取りながら職員と共同或いは分担してやってもらうようにしている。</li> <li>毎食献立説明を行っている。食事をする上での話題作りの一環ともなっている。</li> </ul>	<p>利用者の声を参考にして各フロアで献立を立てている。食事は手作りで、日曜日の夕食のみクックチルを使用している。買い物は職員がおこない、野菜は地元の業者から配達されるものと、隣の菜園の野菜も使用している。おやつレクリエーションでは、どら焼きやスイートポテト、食事レクリエーションでは、焼きそばやお好み焼きなどを利用者と一緒に作っている。誕生日会には本人の好物を提供している。行事には近隣の店で仕出し弁当を注文して地域とのつながりを保っている。必要な方には食材の形を模したムース食を外注し、視覚的な楽しみも重視している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食量、水分量を記録し、摂取量を把握している。</li> <li>・食材の使用量の基準を設け、職員による食事量のバラツキをなくすようにしている。</li> <li>・カロリー計算を行い、適切な摂取カロリーの提供ができていないかを確認している。</li> <li>・水分量の確保の為、本人が好む、または希望する水分を提供し、必要であれば水分形の態にも工夫をすようにしている</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内衛生の為、毎食後の口腔ケアを実施している。</li> <li>・利用者の状態に応じて、必要ならば介助を行うようにしている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の排泄パターン、排泄習慣を考えた上で個別排泄表を作成し、それに基づいて排泄リズムを確立するように努めている。個別排泄表は適時更新している。</li> <li>・トイレでの排泄習慣が継続できるよう、排泄パターンや排泄リズムの見直しを行っている。また、おむつやパッドに関してもトイレでの排泄を考慮した上で適切なものを提供するように心掛けている。</li> <li>・夜間は睡眠優先でケアを行っているが、介助が必要な利用者でも、基本的にはトイレ排泄を前提としている。</li> </ul>	<p>排泄は自立している方がほとんどである。日中は布パンツのみの方や補助的にパット使用の方、リハビリパンツ使用の方がいる。個別に排尿と排便の表を作り、1日の排泄パターンを把握している。自立の方の排便は自己申告のため実態は掴みにくいが、様子や臭いから推察して看護師に報告している。夜間のみポータブルトイレ使用の方もいる。その方に適した排泄リズムを保てるよう、マッサージや水分量の見直しをしている。入院中はリハビリパンツであった方も、退院後は布パンツに戻れるように細やかに支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便秘予防の為に、水分確保ができる食事や繊維質の多い食事が提供できるよう努めている。</li> <li>・排便チェック表を活用することで本人の排便パターンを把握し、排便コントロールを行うよう努めている。</li> <li>・体操(排便体操)やレクリエーションなどで体を動かすことにより便秘予防や便秘解消に努めている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴チェック表にてその日の入浴者の確認や、事前の声掛けを行い、入浴への意識を持ってもらえるように心掛けている。</li> <li>・本人に湯加減を確認してもらったり、入浴時間を調節することで、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。※あくまでも体調に支障をきたさない範囲で</li> <li>・入浴を嫌がる利用者に対しては、職員が協力し合って、入浴の意欲が高まるような働きかけを行っている。</li> </ul>	<p>週2回入浴を基本としている。毎日午後から3名が交互に入浴し、お湯はオーバーフローにしている。希望する方には入浴剤も使用している。ボディシャンプーをよく泡立て、泡で手洗いするようにしてからは、おむね乾燥肌が予防できている。別に下用のタオルも用意し、清潔を保っている。介助用のバスボードと、2階にはバスリフトも設置されている。入浴拒否のある方も、声かけや日時の工夫で機嫌よく入られている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日を通して、運動と休息のバランスを考え、疲労が蓄積しないよう心掛けている。</li> <li>・10日に一度リネン交換を行い、清潔で気持ち良く眠れるよう支援している。</li> <li>・アロマなどリラックス効果が得られるような工夫をしている。</li> <li>・就寝時は、本人が眠りに就きやすい雰囲気作りにも努めている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの薬剤情報を管理し、服用している薬の把握に努めている。</li> <li>・薬の変更があった場合は、申送りや連絡ノートにて伝達することで職員全員が情報共有できるようにしている。</li> <li>・薬の変更時には、状態変化の有無など、経過観察を行っている。</li> <li>・服薬時は職員間でダブルチェックを行い、また、服薬確認シートを活用して誤薬や飲み忘れ防止に努めている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ができることを見つけ、積極的にやってもらうようにしている。毎日の作業の手伝い(テーブル拭きやお盆拭きなど)は当番制で役割分担を行っている。</li> <li>・本人の趣味を生かした取り組み(裁縫、生け花など)を行っている。</li> <li>・職員のレクリエーション担当を決め、継続してレクリエーションが提供できるようにしている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブなどは季節が感じられることを配慮するなどして計画、実行している。</li> <li>・その日の天気や利用者の希望で個別に対応するよう努めている。</li> </ul>	<p>天気の良い日は散歩に出かけている。玄関先のベンチで、利用者と職員が和やかに話す姿が見られた。隣の畑で野菜を育て、利用者は水やりをしたり、地面に座り込んで草抜きなどを行っている。花見会の代わりに花見ドライブで七谷川や保津川乗船場、河川敷などに行っている。ガレリア亀岡で紅葉狩りやバラの鑑賞も楽しめた。時には利用者と買い物に行っている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が希望される場合、家族と相談した上で所持してもらうようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自ら電話ができる利用者については、家族の了承のもと、連絡を取ってもらっている。 ・自ら電話ができない利用者については、職員が連絡し、本人の意向を伝えるようにしている。ビデオ通話も活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に応じた壁飾りを利用者と共に作成し、季節感を感じてもらっている。 ・温度や湿度に関しては温湿度計と体感の双方から考えて調整している。 ・音や光に関しては利用者の訴えや、職員の気づきでその都度調節して不快感を与えないようにしている。	玄関を入ると金魚の水槽があり、餌やりを日課とする利用者がおられる。リビングルームの窓は大きくて明るく、フローア全体に掃除が行き届いている。空気清浄機を2台置き、換気に努めている。キッチンでは食事が手作りされ、5感を刺激する良い匂いが漂う。壁にはちぎり絵の作品やカレンダーが飾られている。利用者は毎日何かを作り、体を動かしている。事務所と脱衣室前ののれんがリビングの雰囲気や和らげている。室内には作業や食事をするテーブルの他、テレビや本棚などもある。ソファはリビング内と廊下の突き当りに置かれ、歩行訓練の後の休憩場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースにはソファや椅子を設置し、気の合う利用者同士と一緒に過ごせたり、また、一人での時間も過ごせるような居場所づくりに努めている。できるだけその人がそこで過ごしたい時に過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には、使い慣れた家具や物品、家族の写真や自身の作った作品などを飾り、居心地の良い居住空間が提供できるよう心掛けている。 ・本人の生活パターンや動線に基づいて、ベッドや家具、物品の配置を考え、より過ごしやすい居住空間になるよう工夫している。	居室の入り口にはちぎり絵で作った季節の飾りがかけてあり、表札も、自室がわかりにくい方には大きく貼りだすなど、その方に合ったものを使用している。クローゼット、ベッド、エアコン、カーテンは事業所で備え、利用者はタンス、鏡台、テーブルなどの気に入りの家具や小物を持ち込まれている。布団類はレンタルで、必要に応じて毛布などを持ち込まれている。掃除は職員がおこなうが、できる方はモップやほうきで掃除をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自身の居室が把握できるよう、利用者に応じて目印となるような飾りや、ネームプレートを付けるようにしている。 ・トイレの場所が分かるように、トイレの案内表示を設置したり、夜間においては、照明を点けた状態にするなどの工夫をしている。		